

## 【菊陽町】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

菊陽町立小中学校では、菊陽町教育大綱の教育理念である『陽光「さん」と輝く人材を育む』～前途洋々 夢を育み 未来輝く 人材の育成は菊陽から～のもと、子どもたちの生きる力を育み、生涯学習社会の実現を目指した教育を推進している。

特に、基本施策1である「学校教育の充実」の中に、「ICT機器を活用した授業の充実及びICTの活用による家庭学習の充実」を定めている。タブレット端末等を活用し、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びを一体化してより豊かな学びを実現させ、将来において社会の変化に対応できる力や、周りの人たちと協力して生きていく力を身につけた子どもの育成を目指す。

#### 2 GIGA第1期の総括

##### (1) 環境整備

令和2年度末までに、GIGAスクール構想の実現に向けた校内高速ネットワーク、無線アクセスポイント、モバイルルーター、プログラミング教材の整備を行い、児童生徒や教職員に1人1台タブレット端末の導入が完了した。授業支援ソフトの導入も併せて行い、子どもたちの学習能力の見える化を図っている。また、令和5年度から学習ドリルを導入し、児童生徒の家庭学習の支援を行っており、児童生徒の学習意欲の向上や自分のペースで学習課題に取り組める環境整備を行っている。

##### (2) 課題

学校教育のICT化を進める一方、次の課題が浮き彫りになっている。

##### ① インターネット回線へのつながりにくさ

学級で一斉に大人数がインターネットに接続した場合、通信に時間がかかったり、アクセスできなくなったりする事案が報告されている。現在学校では、クラスを半分に分け、順番に接続させるなどの工夫を行っている。しかし、今後の学力調査のCBT(※1)化を鑑み、一斉にアクセスしても遅滞なく通信できる環境が求められている。

##### ② 端末の頻繁な故障

児童生徒がタブレットを落とすなどしたことによる破損はもちろんのこと、端末の容量不足によるプロファイルエラーが起こり、端末が使えないと

いった故障が、令和6年度の6ヶ月だけで1,000件にも及ぶ状況である。それにより、児童生徒が一定期間タブレットを使った学習ができないほか、通常は授業支援を行うICT支援員が、メンテナンス対応に追われる事態が発生し学校現場に混乱が生じている。

### ③ ICT活用状況の差

学校間や教員間において、ICTの活用状況の差が現れてきている。ICT教育の推進のため、電子黒板やタブレット、各アプリケーションを整備しているが、上記②のような状況と相まって、タブレットが使えない、またはアプリケーションが分かりにくく、授業で使いにくいいため使わないといった状況が起きている。町内全域でICT教育を推進していくためには、教職員に向けたICT活用研修等を定期的に行い、教員のICTスキルの底上げをする必要がある。

## 3 1人1台端末の利活用方策

菊陽町では、GIGAスクール構想第2期において、端末を更新し、児童生徒1人1台の端末環境を引き続き維持する。

その効果的な利用促進に向けて、以下の取り組みを進めていきます。また、第1期で明らかになった課題を踏まえ、端末の利用や運用の質を向上させるための具体的な対策と改善策を検討していく。

### (1) 1人1台端末の積極的活用について

- ・児童生徒は、学校での授業や端末の持ち帰り家庭学習により、日常的な活用が根付きつつあり、成長段階に応じた積極的な端末の活用を図っていく。また、教員に対しては、ICTの研修等を行い、操作方法や好事例などを紹介して、町内一律にICT教育の向上を図っていく。
- ・授業におけるICT活用を効果的に行うため、ネットワークアセスメントを行い、原因を特定し、通信環境の改善を図っていく。

### (2) 個別最適・協働的な学びの充実について

- ・授業支援ソフトや学習支援ソフトの導入により、教員のICTを活用した授業への意識が向上し、授業改善が進んできている。児童生徒がそれぞれの個性や理解度、進捗に合わせて学習を進める「個別最適な学び」や、友達の取り組みからヒントを得たり、様々な意見交換を通して自分の考えを深めたりする「協働的な学び」が授業内で見られるようになってきた。これらの成功事例を校内や学校間で共有し、タブレット端末の活用をさらに推進していく。

- ・探求課題において、タブレット端末を活用して、情報の収集や整理・分析を行い、自分の考えをまとめ・発表を行う。

### (3) 学びの保障について

- ・児童生徒の実態に応じて、ネットワークと1人1台端末を有効に活用した支援の充実に取り組む。「不登校児童生徒への支援」、「希望する児童生徒への教育相談」についてさらなる充実を図る。
- ・インターネット環境の有無による学習格差をなくすため、オフラインでも使える学習支援ツールを導入している。さらに、必要な家庭にはモバイルWi-Fiルーターを貸し出し、通信環境に左右されない学習をサポートしており、引き続きその充実を図る。「外国人児童生徒に対する学習活動等の支援」、「障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じた支援」についても引き続き対応する。

### 【注 釈】

※1 「CBT」とは、「Computer Based Testing (コンピューター ベースド テスティング)」の略称で、コンピューターを使用した試験方式のこと。コンピューターのディスプレイに問題が表示され、マウスやキーボード等を使って選択肢を選んだり、答えを入力し解答を行う。